



こども病院の血液腫瘍科は筑波大学小児科から赴任された女医、工藤医師が科長となり、堀越医師、高嶋医師、小倉（奈良）医師、阿部医師、坂口医師の新体制でスタートしました。

よろしく申し上げます。

一方、新生児集中治療室では科長を巡る人事の軋轢があり、7人いた医師が2人に減って新患の受け入れを制限するという異常事態に陥っているということです。

もともと、静岡県は人口に対する医師の数が全国平均より少なく、特に病院勤務医が足りない状況があります。

また、若い医師の臨床研修制度の見直しも議論されています。そうした中で、ある医学生は、新聞で「良い教育環境は決して設備やシステムだけではない。むしろ医師同士の信頼関係がきわめて重要、医師には技術の伝承という職人のような側面もある。」と述べています。その通りでしょう。

こども病院は昨年新病棟も完成し、素晴らしい設備が整っています。それ以上に信頼の置ける医師によるチーム医療がこども病院の"売り"です。こども病院は県内での小児救急や難病児にとって“最後の砦”です。

是非速やかに、信頼ができる医師らの補充をお願いして、病院の機能が復活するようにお願いをしたいと思います。



▽ 4歳男の子、急性リンパ性白血病。昨年11月から治療を始め、寛解を迎えて、スタンダードリスクだという。

今後、外来での治療を2年ほど続けるが、再発が心配。住んでいるところは工場の煤煙があり、それが病気の原因ではないだろうかと思う。

これに対して、工藤医師からは以前も電磁波が問題視されて調べたこともあったが、結局因果関係の結論は出なかった、というお話がありました。

また、薬のプレドニンによって感情の起伏が激しくなったり、肥満の症状が出たりするようだという話や、晩期障害が心配だという話が出ました。

▽ 4歳男の子、神経芽細胞腫。4回の抗がん剤治療が終わり、手術を予定していた矢先に発熱があり、けいれんを起こし、白血球も低下した。心配。また、治療の間隔を空けるとがん細胞が知恵をつけてさらに悪くなると聞いた。医師に聞いたらそんなことはないというがどうだろうか。今後、手術や放射線治療もあると聞くがこの先がどうなるか不安。

工藤医師からは、抗がん剤が効きすぎて腎臓や肝臓に影響が出て、熱が出たのだろう。まずは熱を下がるのが大事というお話がありました。

また、4月に入って医療者の人事異動があり、医師も変わり、仲良くしていただいた看護師さんも変わってしまった。医療者が変わることに不安があり動揺もする。子供の方が順応性が高く、看護師さんとも仲良くやっている。外泊しても早く帰りたがり、病院が好きになっている様子なのでありがたい。

次回 は 5月 10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>

<第166回 ほほえみの会>

工藤医師、坂口医師を含め6人の参加でした。